

人々の暮らしに沿った自然再生とは？

— 東日本大震災後の現状と復興計画から —

東日本大震災から3年4カ月が経過しました。津波が押し寄せた海岸はいまどうなっているでしょう。津波の脅威から人の生命と財産を守るために、東北の太平洋沿岸を巨大堤防で囲うという計画が話題になりました。「景観を損なう」、「人と海が切り離される」との反対意見もありました。その後工事はどう進んでいるのか。街の高台移転はどうなっているのか。山の除染はどうか。

まず東北の自然のいまの様子を知りたい。そこで第Ⅰ部では、東北の自然に精通し復興の方向性についても検討されてきた中静透さんをお招きし、とくに自然再生の視点から現状と課題についてお話をうかがうことにしました。けれども、地震で破壊された海岸林を、耕作地を、そして地域をどう再生し守っていくのかという復興の課題は複雑で困難です。様々な疑問や意見がわいてくるのではないかと思います。

第Ⅱ部では視点を変えて、森林再生支援センター（CRRN）が関わってきた地域固有の森の再生事例について点検します。京都三山の森林景観保全再生や岩井川ダム法面緑化ほか多岐にわたる取り組みの中でCRRNが常に意識してきたのは、「どんな場所にどこまで手を加えるべきか」、「地域固有の自然とつながる再生とはなにか」ということです。またこうした事業の評価は長期的観点が必要だと考えてきました。そこで今回は施工後20年を経た再生林を大学院の課題研究として調べた畠田知帆さんから、その技術的側面の評価について話していただきます。

さて、東北の復興や自然再生の課題は地域づくりの課題と切り離すことはできません。人の暮らしと自然のかかわりを考えることなしに再生はないのかもしれない。そこで第Ⅲ部では、森林再生、自然再生、地域づくりの取り組みが克服すべき課題がどこにあるのかを演者と参加者が一緒に議論したいと思います。

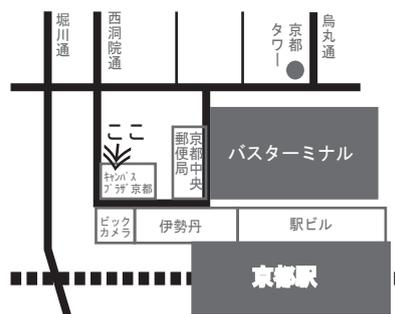
自然の復興や再生と暮らしの安全との関係、周りの環境との関係の重んじ方について議論し、自然再生のあり方そのものの理解を深める機会になれば幸いです。

関心を持たれる多数の方のご来場をお待ちしています。

2014年8月3日（日）

13:30～17:00（開場13:00）

キャンパスプラザ京都 第2講義室（4階）



プログラム

あいさつ：藤田 昇（CRRN 理事長）

【第Ⅰ部】13:35～14:50

人々の暮らしに沿った自然再生とは？
— 東日本大震災後の現状と復興計画から —

「東日本大震災後の現状と復興計画から
人と自然のあり方を考える」
中静 透（東北大学大学院・教授）

討 論：松井 淳（奈良教育大学 / CRRN）

【第Ⅱ部】15:00～15:50

森林再生の考え方と技術的課題

「森林再生の新機軸
— 北アルプス安房峠道路緑化の事例から —」
畠田知帆（京都府立大学）

課題の整理：高田研一（CRRN 常務理事）

【第Ⅲ部】16:10～17:00

皆で議論しよう

「森林再生と地域づくりに見る克服すべき課題」
総合討論司会：松井 淳

事前申込み不要（参加費無料）